

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202833		
法人名	社会福祉法人 佐世保市社会福祉協議会		
事業所名	グループホーム よしいの郷 (A棟)		
所在地	長崎県佐世保市吉井町橋川内570-4		
自己評価作成日	令和5年12月28日	評価結果市町村受理日	令和6年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和6年2月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設当初から変わらない、自然に囲まれた豊かな環境で、ゆっくりとした時間の流れの中でその人らしく穏やかな生活が送って頂いている。また隣接しているデイサービスがある事で柔軟な対応が可能で、必要時の協力体制がしっかりしている。また昼食は厨房からの手作りの温かい食事の提供が好評でご利用者様にも喜んで頂いている。医療面に関しても今年度より委託契約している訪問看護の介入により、週に一度の訪問看護や、必要時の24時間オンコール体制も整っており、ご利用者様もご家族も、職員も安心して、緊急時にも備えることが出来ている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、自然豊かな恵まれた環境の中にあり、隣接する母体法人の介護事業所と共に、地域福祉の拠点となっている。特に日常から地域との繋がりを絶やさない取組は、災害訓練への多くの地域住民参加に繋がっている。また、運営推進会議の参加委員からは、建設的な意見や助言が多く寄せられ、運営に活かされている。利用者や家族からの苦情に対しては、誠意を持って解決に導いていることが確認できる。看取り支援に関しては、かかりつけ医や訪問看護の医療連携体制で毎年、事例があり、利用者、家族の安心に繋がっている。さらに看取り支援後は、職員それぞれが丁寧に振り返りの時間を設けている。所長は、働きやすい職場環境を目指しており、職員のチームワークも良好である。理念である一人ひとりの今を大切に、その人らしい暮らしを守るため、利用者職員が笑顔で過ごす明るい事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ここ2年で看取りを実施出来た事で、本来の理念に基づいた介護をスタッフ一人一人が心身共に体感出来た。認知症の方を知る事で一瞬一瞬を向き合う事の大切さを学んでいる。	事業所の理念は法人理念と共に、玄関、事務所、職員トイレなど目に付く場所に掲示し、全職員が理解を深め、意識しながらケアの実践に繋げている。一人ひとりの今を大切に、その人らしい暮らしができるよう、思いを傾聴し、柔軟な対応を行っている点に理念の具現化が見える。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で制限された外部との交流が難しい数年であったが、また昨年より5類に移行したことで少しずつ交流や制限を緩和出来ている。(地域参加の避難訓練や訪問理容等)	コロナ禍で学生の職場体験など見合わせているが、幼稚園から交流の申込を受けている。管理者は短大で認知症講座の講師を勤め、ハローワークでも講話を行っている。日頃から町内の区長や民生委員などから地域の情報を得て、町内の一員として交流しており、災害訓練への多くの地域住民参加に繋がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	佐世保市内の短大で、認知症についての講義を引き受けさせて頂いたり、ハローワークでの福祉の仕事についての講話をさせて頂いた。現場の話をする事で、介護未経験の方も興味を持っていただけたのではないかなと思う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染状況に応じ2か月に1回開催。又は書面会議を行った。活動状況や身体拘束関連についても報告。	コロナ感染状況を考慮し、年6回、書面や対面で開催している。規定の参加者に警察官の参加もあり、さまざまな意見交換を行っており、書面会議には多くの意見書が届いている。委員の提案で、写真付き情報提供書の作成に繋がっている。ただし、委員以外の家族へ議事録を配付していない。	議事録は、家族の協力や理解を深めるためにも、家族に伝える方法を検討し、更なるサービス向上に活かしていくことに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	空室などの情報を包括等へ案内、発信している。またMail等	市との連絡は、メールの質問票でのやり取りが主である。必要時は市の窓口に出向いている。行政担当課の訪問もあり、相談しながら連携を図っている。また市から案内のある研修を、リモートで受講し、職員間で内容を共有している。包括支援センターとも電話等で互いに情報交換を行い、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ会の際の勉強会を行ったり、3ヶ月に1度の身体拘束委員会開催し、身体拘束(センサー設置が主)の解除に向けての検討会など、前向きに実施している。	身体的拘束等の適正化のための定期的な研修を行い、職員はアンケートでケアを振り返っている。とっさの時に出来る言葉には、理由を伝えて待ってもらおう等、抑圧感のないケアに努めている。転倒防止の足元センサーの使用は、家族の同意を得、解除に向けた検討を行い、実際に解除した事例もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修や、法人内の研修会にも参加し、講義を受け、受講できなかったスタッフにも内容の共有に努めている。認知症の方についての理解を深める事と、職員の気持ちのゆとりをもてる環境を作る事で虐待防止にも努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	一部のスタッフが外部研修を受講後後資料等で内容を共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前から不安な点や、疑問などあられる事は事前に説明し、入所決定の運びになる。また入所後も十分に理解を得てからの契約の締結を行っている。また介護報酬改定時利用料金の改正時その都度書面にて説明署名を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置はしているが、面会できない方もいらっしゃるので、お電話等でもご意見を頂いている。	コロナ禍ではLINEを活用し、利用者の写真を家族へ送ったり、リモート面会を行い、家族の不安を減らすよう配慮している。利用者や家族からの苦情は、顛末を記録に残しており、それぞれの意見を丁寧に聞き取り、改善策を講じていることが確認できる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見を発言しやすい環境にあり、問題解決に向け、上司には相談や協議をしている。利用者様のより良い暮らしの為に検討するよう心掛けている。	職員は、日頃から提案や意見を管理者に伝えており、食洗機の購入が実現している。会議では、職員から活発な意見が出て、フェイス記録の簡素化に繋がっており、運営に職員意見を反映する仕組みを整えている。年に1度、所長と職員の面談を実施し、寄せられた意見と対応策を職員全員へ明らかにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフが働きやすい条件を可能な範囲で雇用して頂き、長く働ける職場づくりを目指している。職員の評価されやりがいを持って働けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	就業年数等によって、必要な段階で研修を受ける体勢を取っている。各自のスキルアップにも繋がっている。また異動することにより、違う現場での実技の面でも介護技術の向上にもなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のGHとの情報交換や、研修等で知り合った市内の同業者とも必要時情報交換や相談等させて頂いている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面談や担当ケアマネからの情報収集を元に、本人の思いと家族の思いをそれぞれ確認し、入所後も時間をかけ信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初対面では情報収集できなかった事も、数回時間を重ね、入所後もご家族と連絡を取り合っている。LINEが可能な方は写真などで生活の様子を送り、安心して頂いている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	前ケアマネからの情報や家族や本人の意向を元にこちらが対応できるサービスは何か話し合い検討させて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	無理強いをせず、出来る方は茶碗洗いや掃除洗濯物干し、畳み、花の水やりなど出来る事は役割を持ってお願いしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	スタッフだけでは解決できない問題は家族にも協力を得ながら本人も家族との良好な関係を維持できるような体勢でサポートして頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	DSの利用者様の面会や外へ出たときの声掛けや交流などをして頂いている。また家族対応時の通院の帰りなど、お寺やお墓参り等行かれる事もある。病院で知人や近所の方と再会された時等も昔と変わらず会話など楽しまれている。	愛読している雑誌を家族が届けている利用者がいる。また、好きなドラマを見たり、CDで音楽を聞きながら眠るのが習慣となっている人がいる。隣接のデイサービスに通っている知人が訪ねて来たり、行きつけの美容室に通っている人や法事や墓参りに出掛ける人など、馴染みの人や場との関係を継続する支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自主的に交流されたり、感情の波がある方は常に認知症の方の精神状態を把握しながら、良好な関係作りができるタイミングで交流に導いている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転院された医療機関からの情報や、退所された方のご家族とお会いする機会がある時はお話を伺い、配慮した声掛けを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の思いの8割は自宅で生活する事。しかし、形を変えて家族と過ごす時間を時々少しでも作る事で希望に繋げている。また具体的に、歩きたい、人に迷惑をかけたくない、等の思いが強い方にもリスクはある場合も、可能な方法で支援出来るよう検討している。	起床の時間は、自由である。難聴の利用者には、耳で語り掛けている。眠れない人には、夜勤者が寄り添って、お茶を出すこともある。職員は、利用者それぞれが不穏になるきっかけは何かを理解しており、穏やかに暮らすことができるよう配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に収集した情報+信頼関係ができてから収集できる情報で、少しでもその方を知る事が出来るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフにより着眼点が違うところもあり、それをスタッフがそれぞれに共有できるよう、日々の申し送りや記録で情報把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様が心穏やかに過ごせることを一番の想いでお一人お一人にあった介護の内容、支援の方法など話し合い実施している。	利用者と家族から暮らし方の要望を聞き、現状に即した介護計画を立て同意を得て、実践に繋げている。業務日誌やケース記録から、介護計画とケアの連動が確認できる。介護計画は短期6ヶ月、長期1年の目標を決め、毎月の会議でケース検討会を行っている。入退院時や変化があれば迅速に見直し、変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人チャート棟具体的な事、細かい事もスタッフが情報共有しており、必要時はスタッフ間で協議しながら支援の方法を変え状態の変化にも対応出来るよう検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	時には生活の場であったり、第二の自宅であったり、時には終の棲家であったり、その時に応じた支援の仕方でお一人お一人を家族や医師やご利用者様同士で支え合う環境づくりに努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族や医療機関などの連携を図り、友人やご近所の方、お寺などとの繋がりを大事にしご本人を支えるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	可能な限りご本人、ご家族の希望に沿って主治医と繋がりを持っている。体調に不安がある時は臨時でもできるだけ受診をできるように対応している。主にターミナルケアに関しては、主治医の選択は重要な要素となってくる。	入居前からのかかりつけ医や専門医の受診は家族が対応している。協力医への受診は月1回、訪問看護が週1回あり、日常の健康状態を把握している。家族へ結果を伝え、通院記録で職員間で情報の共有化を図っている。夜間急変時は、看護師の職員とオンコール体制を取っており、適切な医療受診ができるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員との関係性も良好で、専門医受診についても必要時はそうなんうい対応してもらっている。また事業所と委託契約している訪問看護ステーションがある事で、早目の段階で受診の必要性なども指示をもらいやすい環境にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当SWやNSと入院時、入院中、退院前と必要なタイミングで連携をとりながら、その方の情報提供や、情報収集に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の契約の際には終末期に向けた方針の説明をし、同意を(書面)でとっている。また状態の変化に伴い、その時に応じながらご家族の希望を確認している。	重度化した場合の対応及び看取りに関する指針があり、入居時の意思確認、終末期の意思確認を明記し同意を得ている。状態の変化に伴い、かかりつけ医の判断で家族へ説明し、希望があれば看取り介護を行っている。毎年看取りの事例があり、職員の看取り支援後の振り返りや研修も充実している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	細かく訓練などを行う事は出来ていないが、日々、NSに相談しながら、事前に対応できる事を指導してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	地域の方を交え火災訓練を年に数回計画し行っている。水害や地震の時も避難出来るようBCPの作成を行い連絡体制も万全に整えつつある。(自動火災通報装置を使用した訓練等)	通報装置には区長を登録している他、夜間想定訓練に地域住民が9名参加し地域と協力体制を築いている。水害時は河川から離れたユニットへの水平移動と定めている。非常食や水の備蓄も備えている。利用者の詳細情報を記載したゼッケンを作成したり、夜勤職員に加え当直職員を配し、利用者の命を守る安心の体制を整えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症の方であるからこそ、自分たちの声掛けや対応方法で症状が変化することを研修を通し学び意識しながら支援している。	利用者の呼び方は、苗字にさん付としている。入浴時の同性介助の要望に応じている他、トイレでの介助の際は、職員は外で待機し、羞恥心に配慮している。職員の採用時には、守秘義務の誓約書の提出を義務付けている。便りに使用する利用者の写真掲載については、家族から同意書の提出を受けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	活動の時間も全員が同じ時間に同じことを常にするのではなく、その方の気分や出来る事を選んでもらいながらして頂いている。また好きな衣服を選んだり、小さなことでも自由に自己決定できる事を見つけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や入床時間など、入浴など体調や気分によって変わる事もあり、共同生活でありながらも、家庭的な雰囲気や融通がきくよう対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服選びや、ヘアーカラーなどご本人の好みに合わせおしゃれをして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	全員ではないが、可能な方にはお手伝いをしてもらったり、味付けを相談したりしている。台拭きや茶碗洗いなども、意欲がある方は積極的に自主的にして下さっている。	朝、夕を事業所で作り、昼食は隣接するデイサービスの厨房から届いている。きざみ食やとろみ食にも対応している。利用者も野菜の皮むきを手伝うこともある。利用者の苦手な献立は、味付けを変えて提供している。誕生日は、利用者のリクエストメニューとケーキで祝ったり、おやつを皆で作ったりと楽しい食事となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師の助言も受けながら、栄養状態を確認したり、その方に必要な食品目などを把握し提供している。また毎食の摂取量の確認も毎日記録に残して状態の変化にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後自立の方には声掛けし、必要な方には見守りや、介助をしその方にあった口腔ケアを行い、誤嚥性肺炎などを予防することも目的とし、口腔内の衛生に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	布パンツで可能な方は(汚染頻度も考慮し)本人の羞恥心などなければパットを使わない方向で考えている。全介助の方も介助することで可能ならばトイレで排泄する快適さを実感してもらい、その人に応じた回数トイレへ誘導している。	日中は、できるだけトイレでの排泄を促している。利用者が退院直後、おむつだった人がリハビリパンツを経てパッドのみへと改善した事例がある。パッドは人目に付かないよう収納している。トイレへ誘導する場合は、そっと声掛けし、羞恥心に配慮している。夜間のみポータブルトイレを使った後は、日光消毒を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品やバナナ繊維質の物、オリゴ糖等便秘に合わせ個々の食事内容も少し変化させていることもある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に不公平さやトラブル防止の為曜日は決めているが、ご本人の気分によって融通がきくように対応している。	入浴日は、月曜から土曜と定めており、希望があれば、日曜日にも入浴することができる。浴槽に浸かることを基本として、状態によっては足浴とシャワー浴を組み合わせている。平均して週に2、3回入浴支援しており、体調が悪い場合や拒否がある場合は、清拭で対応している。冬至には、柚子湯で、リラックスする時間を作っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	身体や精神的な状況でも睡眠状態もかわってくるので定時入床を促したり起床の時間を徹底して他の方と合わせる事はしない。室温や照明の明るさや音楽を流したり小さな工夫もしている。午後の休息の時間も入居者の方にとっての事もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	最新の現在服用されている内服薬のファイルも常にスタッフが確認できる所に置き、変更があった際は、内容と留意点等について申し送り、十分な観察を行うように促している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	人によって差はあるが、基本的に役割を持って頂き出来る事は協力して頂いている。お一人お一人の得意な事や昔の職業などに合わせた内容などでそれぞれに違う事を楽しんで頂いている。嗜好品もご家族からも差し入れ等でおやつに出す事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍であった事もあり、外出を控えてた期間も長かったので外出の機会も少なかったがご家族の協力を得て出かけられる事もある。	日常では、病院への受診の行き帰りに車窓からの景色を楽しんでいる。コロナ禍では、広いウッドデッキでおやつを食べ、外気に触れる機会を作っている。デッキでの夕涼み会では、皆で花火を楽しんでいる。今年は、久しぶりに花見や近隣の名所へ出掛ける等、職員は支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことで安心される方もおり、所持されている方もいる。実際には使用する事は現状難しかった。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望の際は電話やリモート面会、手紙のやり取りは自由にできる環境作りをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	スタッフが、それぞれに得意な事を生かしながら、積極的に季節に応じた心地よい装飾をしたり、視覚や聴覚など強い刺激の無い様に心がけ、体調管理にも十分配慮した室温等の環境づくりを心掛けている。	各ユニットに中庭があり、リビングからは植木や花が見え、天気や季節の移ろいを感じることができる。テレビ体操で身体をほぐし、ドリル、塗り絵など好きなことを支援している。ウッドデッキから広い園庭が続き、外気浴やおやつタイムに活用している。廊下やトイレは車椅子使用でも十分な広さがあり、掃除や換気も行き届いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人が自由に自室を行き来できる状態で、強制することなく思い思いの時間を過ごして頂いている。他者と過ごす時間を楽しみたいときには居間や食堂などの共有のスペースで過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の持ち込みの家具やご家族の写真などを飾り、安心できる空間づくりに配慮している。	居室はフローリングと畳の部屋があり、ベッドとカーペットの設置がある。シーツや毛布など好みの寝具を使用し、時計、仏壇、テレビ、CD、整理タンス、椅子、パイプハンガーなど必要な物品の持参がある。孫や家族の写真を飾り、安心して過ごせるよう工夫があり、掃除や換気は職員が行い、臭気もなく清潔である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	少しでも出来る事を見つける為に、どのような工夫をしたらそれが出来るのか等、その方について十分に観察をし、アイデアを出し合い支援について話し合っている。安全性についてもリスクマネジメントを通し確認し合っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202833		
法人名	社会福祉法人 佐世保市社会福祉協議会		
事業所名	グループホーム よしいの郷 (B棟)		
所在地	長崎県佐世保市吉井町橋川内570-4		
自己評価作成日	令和5年12月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	令和	年	月 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は緑に囲まれ、四季折々の美しさを視覚で十分に感じることができる環境にある。施設内も畳や梁など昔ながらの懐かしさを感じる事が出来る造りとなっているが、安全面や生活しやすさにも配慮しており、入居者の方々は穏やかにご自分のペースで生活されている。グループホームだからこそできるお一人お一人の細やかな状態変化における観察を行い、その都度に入居者それぞれの状態に添った対応を検討、実践している。また、プライベート訪問看護との連携を行い、定期的な健康観察と24時間緊急時の相談ができることで入居者は安心した生活が営まれ、必要時には臨時的な受診も迅速に対応できている。□

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月開催のスタッフ会議のデジユメに「よしいの郷」の理念を掲載、必ず目を通すようにしている。また、管理者が認知症実践者研修参加時にスタッフが目に付きやすい箇所に理念を添付し毎日の業務の中で共有できるようにした。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ渦であるため、地域の行事への参加が難しい状況にあるが、夜間想定避難訓練時に地域住民の協力を得る。地域の病院や美容院の利用、必要時の往診・定期的な訪問理美容を利用している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの影響もあり、地域住民が参加する場所へ出向いていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の開催で、施設内で起きたヒアリハットや事故報告を行い意見や助言等いただく。その中でエスケープの見守りに関するチャート使用など助言をいただき作成を行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進協議会にメンバーとして保健師1名の参加があっている。会議終了後には、報告の提出を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	R5年7月10日、佐世保市グループホーム連絡協議会主催の身体拘束防止研修に職員1名が参加し、後日内部研修の中で伝達を行い情報の共有を行っている。また、今年度2名の新規採用があった為、個別に研修を行い理解を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の高齢者虐待研修会への参加と、スタッフ会での不適切なケアの学習、スタッフ一人ひとりの精神状態を把握できるように会話や声かけを行い、虐待へ繋がらないようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症で判断能力が低下した方々に対し、適切なサービス利用と財産管理ができるように研修会開催時には参加を行い、参加していないスタッフへ周知を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新規入所前に、ご家族へ重要事項説明書及び契約書の説明を行い、ご理解・納得を得て署名をいただいている。介護報酬改定時、利用料金の改正時等は、その都度書面にて説明、署名をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会のメンバーとして、1名の利用者・1名のご家族に参加され、意見をいただいている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	問題発生時にはその都度対応できるよう柔軟な対応を心掛けている。所属長が年に一度職員全員と個別に面談を行う機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得後の資格手当やその後常勤職員への雇用など、各自がやりがいをもてるような職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会への参加は職員全員が受講できるようにしている。又、年に2回以上の法人内全体研修もあり、職員全員が参加できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	佐世保市グループホーム連絡協議会へ加入し、近隣のグループホームとも顔見知りの関係性ができ、お互いの情報交換サービスの質の向上につながっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前より、前担当ケアマネより基本情報を収集しそれを基に本人の面談・家族の意向の確認などアセスメントを行い、職員全員への情報共有・把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安や困り事も収集し、施設サービス計画書の作成を行い、入所時に説明、同意を得るようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス担当者会議を行い、ご本人・ご家族・職員と意向や希望など話し合いができる機会をつくっている。訪問看護や居宅療養管理指導などサービスを取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物干しやたたみ・衣類の整理など職員だけでは行わず、入居者と一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	3か月に1回のモニタリング時には状態変化や内服薬変更時等、こまめに家族に報告を行い、通院など必要時には家族にも同席をいただいている。その旨を、スタッフ会等で職員全員で共有できるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	運営推進会議のメンバーに地域の民生員に参加していただき、会議の開催を施設内で行い、顔合わせができるようにしている。また、仲良くされていた友人の面会であったり、利用されていた美容室に通ってもらえるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	洗濯物干しやたたみ等を一緒にしていただくなど、入居者同士が関われる環境を見つけ共同生活が遅れるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院先の病院より、病状や状態等情報をいただいたり、ご家族へお逢いした時は、その旨お話したりご家族の体調などお伺いし、必要に応じた声掛けを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が日頃の会話の中で得た情報等を記録に残し、職員間で情報を共有している。モニタリングの中でご本人やご家族の意向や思いを聞き、ケアプランに反映できるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の面会やモニタリング時などに聞き取りを行う等、これまでの生活の把握を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態変化を観察し、記録に残し毎月のスタッフ会議でカンファレンス情報の共有ができるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランに沿った支援を行いながら、毎月のスタッフ会議で各スタッフより日々の状態や入居者から得た情報を共有し、ご家族の希望を確認して介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、個人記録の記入を確実にを行い、申し送りなども含めて職員間での情報共有ができるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時等状態変化時は、ご家族と病院へ同行し付き添いを行っている。また、プライベート訪問看護や居宅療養管理指導を利用している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の地域資源を把握し必要な時は利用できるようにしたい		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に協力医についての説明を行うが、かかりつけ医がいる方については希望にも沿うようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の健康観察や入浴時の皮膚の観察等を確実に記録し、職場内の看護師が状態変化に気づき早期対応ができるようにしている。又、週に1回の訪問看護と24時間での緊急相談が出来るようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ご本人に関する情報を医療機関に提供している。又、状態把握の為、病院関係者やご家族との話し合いを行っている。退院時のカンファレンスに同席し、受け入れの際の注意点や疑問点の解消に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に終末期のあり方についての説明を行い同意の確認をしている。又、入居者の重度化が進んだ場合には、ご家族や医療機関と相談しながら対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時の対応については、毎月のスタッフ会議で急変委員の対応手順について周知している。初期対応の研修については、今後研修を行い実践力を身に付けていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	年2回防火避難訓練を行っている。その内の1回は地域の方にも協力を得、夜間想定訓練を行い、消防署の指導を受けながら、利用者の避難を最優先に取り組んでいる。今後は、水害や地震を想定した訓練も必要になっており、実施していきたい。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、常に入居者の人格を大切にし自尊心を傷つけないような対応を心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、ご本人の思いや希望を表す事ができるように、言葉かけを行い、自己決定支援に心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居前の生活状況や日々の日課を把握、本人の意思を尊重しお一人お一人のペースで生活できるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の着替えはご本人の意思を尊重して一緒に準備を行っている。毎朝の洗面整髪などもご本人が出来の方はご自分でしていただいたり、ホットタオルを渡して、顔などを拭いていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日にはご本人の好きな物をお聞きしたり、季節を感じられる食材を使用するなど、メニューを工夫して行なっている。コロナ渦で、一緒に準備や片付け等を行う事が出来なかったが、今後取り組みを検討したい。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量を記録すると共に毎食摂取量の把握をしている。栄養バランスを考慮した献立に基づき調理を行っている。		

グループホーム よしいの郷 (B棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、各入居者の状態や能力に応じた声かけや見守り・介助にて、口腔ケアを行っている。夜間は、ご本人に促し義歯を外して洗った後カップに入れて頂き洗浄している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記録し、各入居者の排泄パターンを把握しており、声掛けが必要な方には時間をみて排泄の誘導・介助を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表に記録し、排便の状況を把握している。便秘気味の方は主治医と相談し内服調整を行って貰っている。又、水分摂取量の把握や体操など、便秘予防にも努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の皮膚状態なども考慮し、入浴日や時間等は固定しているが、その日の気分や体調等で臨機応変に対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の居室は室温に注意し良眠できるようにしている。又、日中居眠りが強いようであれば居室で休んでもらったり、その時々状況に合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表を活用し、服薬の内容等を確認をしている。服薬変更時は通院記録に記入し、スタッフ全員に周知している。又、各個人ファイルには処方された薬の内容、副作用について記入しており、服用後の症状の変化等観察をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナ渦で、通院以外の外出ができなかったため、天気の良い日は中庭で昼食・おやつを食べるなど気分転換ができるようにしている。ご本人の趣味嗜好に合わせた個人活動ができるように支援している。		

グループホーム よしいの郷 (B棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の中で、外出を自粛しているが、今後は、散歩やドライブ化移出・可能であれば地域の方やご家族にも協力を得て地域の行事等にも参加していきたい。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	貴重品は基本的に金庫でお預かりしているが、本人が必要なものなど要望があれば、購入の手伝いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があれば、電話をかけたり、受けたり出来るようにしている。又、手紙を出される方には切手の購入、投函等の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常時換気を行っている為、室温や湿度に気を付けている。お正月飾りやひな祭、七夕飾りなど季節ごとに壁装飾等に変化を持たせて生活感や季節感を感じてもらえるように工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のソファでテレビを観たり、自室でゆっくり過ごされるなど、自由に過ごして頂けるようにしている。又、ソファに座られる際には、気の合った方と隣同士で座って頂けるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、ご本人が愛用されていたものは持参していただき、そのまま使われるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共同生活をする中で、利用者の思いや願いを傾聴し、日々の生活の中でその人に合った暮らしができるように努めている。		